

『すべては、社員のために』



株式会社豆子郎

たはら ふみえ

常務取締役 **田原 文栄**

山口商工会議所常議員・2号議員

山口市大内御堀で生まれ育つ。
野田中学校、野田高等学校から、芦屋大学へ進学し、1995年卒業を目前に阪神大震災で被災し帰郷。㈱豆子郎に入社、社員として勤務。
店頭での接客の手伝いは2～3歳の頃から祖父母に連れられて行っていた。2001年に取締役に就任、2003年から常務取締役に就任し、現在に至る。
趣味は？と伺ったところ、「何を趣味と言えるかの線引きが難しいですね、私にとってワークとライフは“バランス”というより“ブレンド”していますね。」とのこと。

〔企業概要〕

㈱豆子郎
住 所：山口市大内御堀 33
TEL：083-922-5655
創 業：1948年
従業員数：102名



田原常務のプロフィールを教えてください。

2、3歳のころから、祖父母に連れられて、豆子郎湯田店の店頭で、お客様に試食やお茶を出していました。幼い頃から、茶道、華道、三弦、箏曲などのお稽古にも通っていました。野田中学校に通っていたのですが、山口中央高等学校を受験し、見事合格！セーラー服が着たくて(笑)。しかし母から「学業も大切だけど人としての器を大きくすることが大切」精神修行を伴う「道」の世界をしっかりと味わいました。良い師に恵まれ京都までお稽古に通っていたため学校を休むこともあったので、仕方がないですね。

高校卒業後は、芦屋大学に進学し、神戸で学生時代を過ごしました。そして、卒業を目前に控えた1995年1月、阪神大震災が起



本店外観

こりました。被災した私たちの卒業式は大阪で行われ、私は山口に帰郷し、㈱豆子郎に入社しました。

現在は常務取締役というお立場ですね。

私の母は末っ子ですし、私にも兄、従兄弟がおりますので、生まれながらの後継者ではありません。

ですから私自身も会社を手伝うことはあっても役員や、ましてや後継者になるとは考えてもいませんでした。

幼い頃から沢山のお稽古事をしていましたので、伝統芸能の世界で生きていく事ができればと思い、お稽古に励んでいたくらいです。

兄も医者となり従兄弟達もそれぞれ別の



本店内観

道へ進んでいます。

現在専従しているのが私だけなので常務取締役という役職に就いたと言っても過言ではありません。

一時期、「なぜ私だけ」「なぜ私が」と悩んだこともありましたが、そんなとき、恩師から「1%でも会社が気になるなら、残りなさい」と言われました。本当に出て行きたいのなら、出て行くことは簡単です。でも、色々と言いつけて出て行かないのは、結局会社が気になるからだろう、と。「確かに、そうだ」と思い、それからは前向きに、会社のために何が出来るかを考えるようになりました。

㈱豆子郎について教えてください。

創業者である私の祖父・田原美介は、中国で鉄道エンジニアをしていました。終戦を迎え、日本に引き揚げたのですが、日本の食糧事情が中国に比べてとても酷くて、愕然としたそうです。

それなのに、私の母が「食べ物が無かったはずなのに、ひもじい思いはしたことがない」と言うほど、祖父は家族思いで食べるこ



生絹豆子郎
創業者である田原美介氏の渾身の一品です。

とおいしい物が大好きな人でした。祖父は、配給される僅かな砂糖と小麦粉、そして糠を使って、糠パンを作りました。それが驚くほど売れたそうです。

菓子作りに没頭し、必死に研究を続ける祖父を見た山口外郎の創業者である福田屋さんが、祖父に作り方や秘伝を教えて下さったそうです。祖父は、同じものを作っては福田屋さんを超えることはできない、また師である福田屋さんを超えてはならない。ならばそれを基に唯一無二のオンリーワンになろうと、試行錯誤を重ね、外郎に小豆を加えた「豆子郎」ができあがりました。

素人の作ったお菓子ということで「どうしろう」と言うのですが、「豆の入った、外郎から生まれた子」という意味もあって、「豆子郎」という文字をあてています。

「採用活動」に、とても特徴があると伺いました。

（株）豆子郎という会社が目指す未来へ、共に進んでいける人材を採用したいと考えています。採用するということは、その人の一生を、そして、その家族の一生を背負うと言うこと。だから、お互いが納得いくまで、長い人では100時間近く、採用までに話し合います。お互いが丸裸になり、人間同士ぶつかり合い、同じ未来へ進んでいけると思える人が、「豆子郎ファミリーの一員」になります。

とても素晴らしい人に出会い、その方をどうしても採用したい!と思ったとしても、彼・彼女が当社に求める事と、私たちが与えられるものに齟齬があれば、「あなたは本当に素晴らしい人ですが、当社は、あなたに見合うだけのものを与えられるレベルに達していないの。ごめんなさい。」ということもあります。せっかくのご縁がそうならないためにも、私たち役員であるリーダーが常に成長することは必須だと考えています。

社員教育にも徹底した理念をお持ちですね。

入社したての従業員で、「何かできることはないですか?」と尋ねる人がいます。私はその質問に「あなたには今何ができると思

うの?」と質問で返します。

私たちは、まず「お客様のために何ができるか」、次に「社員同士がお互いのために何ができるか」を、自主的に考え行動に移すための社員教育を行っています。自分でできる事を考えるというのは、非常に難しいものだと思います。接客の仕方に止まらず、身だしなみや立ち居振る舞いまで。

接客については、私たちがお客様に「これはおすすめですよ」という事は言いません。お客様によって、求めておられるものは千差万別。美味しいと思われるモノも違います。まずはお客様の御要望をお伺いし、それにお応えできる商品をご提案します。

これは、私が幼い頃に祖父から教わったことです。3歳くらいだった私は、お店にいらっしゃったお客様に「これ、おいしいのでどうぞ」と試食をおすすめしました。すると、すぐに祖父に呼ばれて「美味しいかどうかはお客様が決めること。だから美味しいと言ってはいけません。文楽が美味しいと思っているのなら、美味しいと言わなくてもその気持ちが伝わるようにお客様に接しなさい。」と言われました。今でも覚えている、祖父との思い出です。

「すべては、社員のために」という想いについて教えてください。

私が目指していることは、「社員を幸せにすること」です。私は常々、仕事はサクセス、プライベートはハピネスと言うのですが、仕事もプライベートも、どちらも幸せでなければ、人生は幸せではないと思います。「自分がどう生きたいか」という「人それぞれの人生のルール」の上に、仕事や家族があります。繁忙期が世間のお休みと重なる事が多い弊社では、みんなが休みの時に働くことになり、工場勤務の者は、毎朝2~3時には出社します。ご家族の理解がなければ、幸せな気持ちで仕事をすることはできません。

私たちが作っているもの・売っているものは、御菓子です。しかしながら、お客様へ提供しているものは喜びや幸せです。だからこそ、作る人間、売る人間が笑顔でなければ、お客様も笑顔にはなれません。



製造現場では、1つ1つ社員の方が心をこめて製品を製造しています

社員は、お客様を幸せにすることを目標に、私は社員を幸せにするために自分を磨き、それを社員みんなに還元できるように、努力を続けたいと思っています。

これからのおすすめ情報を教えてください。

（株）豆子郎は和菓子屋ですが、クリスマス時期だけ、要予約・台数限定で「クリスマスケーキ」を作ります。ひとつずつ手作りで、冷凍保存もしません。他の和菓子も作りながらなので、台数限定になってしまいます。

「日本のクリスマスは山口から始まった」という史実と、私たちが大切にしている山口のみなさまへの感謝の気持ちをこめて、本当に美味しい、気持ちのこもったクリスマスケーキをご提供しようと考えてのことです。



豆子郎キャンドルナイト(夏至)

また、12月22日の冬至の日には、豆子郎キャンドルナイトを開催します。これも、地元のお客様への感謝の気持ちを込めて毎年行っており、お陰様で今年で11周年を迎えます。

是非皆様に、お越しいただければと思います。

今後の目標などを教えてください。

（株）豆子郎は、地元の方に愛され、育てていただいた会社です。地域の方々への感謝が、第一。地元を盛り上げることが第一ですので、全国展開などは考えていません。

「豆子郎を買うために、山口に来た」と言ってもらえるお客様が一人でも増えることで、山口市の交流人口の増大に寄与できる御菓子へと成長させるため、これからも社員全員で取り組んでいきたいと思っています。



豆子郎キャンドルナイト(冬至)
1000個を超えるロウソクの灯りが照らす庭の美しさは圧巻です